



IGF 2023

(第18回インターネットガバナンスフォーラム)

報告

IGF

京都
KYOTO
2023

2023年10月8日(日)から12日(木)にかけての計5日間にわたり、日本では初開催となるIGF (Internet Governance Forum) 2023が、国立京都国際会館(京都府京都市左京区)およびオンラインのハイブリッドにて開催されました。本稿では、このIGF 2023について報告します。

全体概要



会合の様子

国連によれば、参加申込者数は11,145名に達しました。参加者数は、現地参加が178ヶ国より6,279名で、オンライン参加者は3,000名以上とのことです。IGF 2022との比較では、民間部門の参加者が11%増えたこと、およびアジア太平洋地域からの参加者が32%増えたことが特筆すべき点であると国連の報告^{※1}ではなっています。

他に初参加者の割合が67%に上ること、ユース(30歳未満)の割合が18%であること、各国(38ヶ国)国会議員の参加者の割合は3%であることが報告されました。

また、IGF 2023では800以上のセッションが提案され、選定の結果、セッションの総数は355となりました。

開会式

国連事務総長アントニオ・グテーレス氏からのビデオメッセージに続いて、岸田文雄内閣総理大臣からは、主に以下の点について語られました(全文^{※2})。

- ・IGFの、オープンかつ民主的、包摂的なプロセスを重視するという基本理念は、我が国の基本的な価値観と一致する。
- ・自由で分断のないインターネットは、開発、保健、安全保障といった、我々が直面するさまざまな課題の解決や、人類の更なる発展のために不可欠である。

・偽情報を含む違法有害情報の拡散、サイバー攻撃、サイバー犯罪などの負の側面にも目を背けることなく、世界中から、さまざまな立場の参加者が一堂に会し、マルチステークホルダー・アプローチの議論により英知を結集することで、リスクを低減しつつ、インターネットの恩恵を最大化できると確信している。インターネットが、信頼性のある自由なデータ流通(DFFT)を促進し、引き続き人類の発展に貢献するためには、オープン、自由、グローバル、相互運用可能、安全かつ信頼できるインターネットを維持することが必要であると確信している。

・我が国は、さまざまな立場のマルチステークホルダーによるインターネットガバナンスを支持し、引き続きコミットする。



ホスト国を代表して岸田首相による挨拶が行われました

ユーストラックおよびサミット

IGF 2023のユーストラックは、サイバーセキュリティと信頼という包括的テーマの下、さまざまな側面に関する専門家による能力開発ワークショップで構成され、地域IGF会合のセッションとして開催されました。

ユーストラック概要

<https://www.intgovforum.org/en/content/igf-youth-track>



ハイレベルリーダートラック

ホスト国日本の政府(総務省)と国連(経済社会局およびIGF事務局)

※1 IGF 2023の統計 <https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-participation-and-programme-statistics>

※2 岸田総理のメッセージ全文 https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/actions/202310/09igf_opening.html

が共催したハイレベルリーダートラックでは、あらゆるステークホルダーグループの専門家や指導者が、一連の重要議題について10月8日 (Day 0) および10月9日 (Day 1) に議論を行いました。具体的には次の5セッションが開催されました。

- ・ハイレベルパネル1:「信頼性のある自由なデータ流通」(DFFT)を理解する
- ・ハイレベルパネル2: 誤報・偽情報に関する、進化する傾向
- ・ハイレベルパネル3: WSIS+20を見据えて: マルチステークホルダープロセスの加速
- ・ハイレベルパネル4: SDGsを活性化するアクセスとイノベーション
- ・ハイレベルパネル5: 人工知能 (AI)

ハイレベルパネルの概要

<https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-high-level-sessions>



議会トラック

IGFでは、インターネットと関連するデジタル技術の利用、進化、ガバナンスに関連する喫緊の課題に関する議論への国会議員の参加を強化してきています。IGF 2023では議会トラックとして、「我々が望むインターネットのためのデジタル・トラストの形成 (Shaping Digital Trust for the Internet We Want)」をテーマにセッションが開催されました。

議会トラック全体概要

<https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-parliamentary-track>



メインセッション

IGF 2023のメインセッションとして、次のセッションが開催されました。会場はいずれもMain Hallなので、日本語通訳入りの録画が視聴できます。

- ・グローバル・デジタル・コンパクトとその先: マルチステークホルダーの視点からの概要
- ・サイバー犯罪対応における国際交渉と現場経験のギャップの橋渡し
- ・私たちが望むAI
- ・未開発の資源: デジタル協力は環境に関する戦いにどう貢献できるか?
- ・デジタル時代の人権擁護: すべての人の尊厳と自由を守るためのマルチステークホルダー・アプローチの育成
- ・デジタル・ガバナンスの未来 デジタル協力、IGF、ステークホルダー参加の強化

各セッションの概要

<https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-main-sessions>



NRIセッション

IGF会期中に、以下の五つのセッションが開催されました。

- ・NRIs Main Session
- ・NRIs Coordination Session
- ・NRIs Collaborative Sessions
 - AI and Emerging Tech
 - Cybersecurity
 - Digital Inclusion

ブース展示

会場に入り、セキュリティチェックを通過後、IGF Village (ブース展示エリア) を必ず通過しなければいけなくなっていました。ブースは国連が公募し、世界中から出展されました。加えて、総務省が日本の企業・非営利団体に打診して出展したブースも半分近く存在し、その一例はJPNICブログ記事にも掲載されています。JPNICも一番端でしたがブースを出展し、多くの参加者に立ち寄っていただきました。



会場にはJPNICもブースを出展しました

IGF Village 2023 (国連側で募集したブース一覧)

<https://intgovforum.org/en/igf-village-2023>



閉会式

閉会式は清水寺の貫主、森清範氏の席上揮毫で始まりました。森氏は漢字能力検定協会が毎年定める「今年の漢字」を揮毫なさる方で、2011年の今年の漢字である「絆」を見事に書き上げられました。

閉会の挨拶では、渡辺孝一総務副大臣に続いて、門川大作京都市長からもご挨拶がありました。和装で現れた門川市長は、京都が古都であるとともに数々の革新的な事業を生み出した地であることに触れ、IGF京都開催の意義を強調しました。

最後に

IGFはあらゆる点で巨大な会議で、本稿はその全体のごく一部分を切り取ったにすぎません。これを読んでいただいて、IGFおよびインターネットガバナンスに少しでも興味を持っていただければ幸いです。JPNICのWebサイトでは、写真を含めたフォトレポートと、より詳細な報告記事を公開していますので、ぜひご覧ください。

IGF 2023 (第18回インターネットガバナンスフォーラム) 報告

[前編] <https://www.nic.ad.jp/ja/mailmagazine/backnumber/2023/vol2036.html>

[後編] <https://www.nic.ad.jp/ja/mailmagazine/backnumber/2023/vol2037.html>



IGF京都2023フォトレポート

<https://blog.nic.ad.jp/2023/9306/>



また、さらに詳しく知りたい方は、IGFのWebサイトから、全セッションの録画を視聴することができます。

IGF 2023各セッションの文字起こしおよび録画へのリンクページ

<https://www.intgovforum.org/en/igf-2023-transcripts>



国際連合が主催であるIGFでは、
各国政府が務めることになっています。

今回のIGF2023京都会合で
ローカルホストを務めた総務省の飯田陽一様から、
会合を振り返ってのご挨拶をいただきましたので、
みなさまにご紹介いたします。

IGF 2023 2023 10.8 SUN ▶ 10.12 THU in KYOTO

IGF京都2023を開催して

総務省国際戦略局 飯田陽一

「現在のインターネットは無法地帯である。我々は米国西海岸流の(自由放任の)インターネットでも、中国流の(国家管理による)インターネットでもない第3の道を追求しなくてはならない」2018年、パリで開催されたIGF年次会合の冒頭、フランス・マクロン大統領の第一声でした。

折しも2018年6月、グテーレス国連事務総長はデジタル技術の分野における国際協力が機能しているか、という問題意識に基づき、ハイレベル諮問委員会を組成し、Global Digital Cooperationに関する報告書を公表し、IGFの改革(reform)を提言したところでもありました。

これらの問題提起はインターネット空間をいかに安心・安全でありつつ、自由でイノベーション促進的なものとして発展させていくか、という政策課題を改めて考え直す機会を提供してくれました。

インターネットが誕生して30年。研究者のネットワークから始まった、このnetwork of networksは瞬間に社会経済になくてはならないインフラとなりました。電子メール、eコマースから始まり、今やありとあらゆるアプリケーションがインターネット上で提供され、アバターとしてメタバースでパラレルワールドのような別の人生を歩むことも夢ではなくなりました。社会経済のあらゆる分野で、すべての人の生活に影響を与えるインターネットのあるべき姿とガバナンスの議論には、やはりすべての人が参画するマルチステークホルダーアプローチで臨まなければならないのだらうと思います。

日本は2019年、G20議長国として「信頼性のある自由なデータ流通(DFFT: Data Free Flow with Trust)」の理念を提唱しました。プライバシーや知財の保護、情報セキュリ

ティ、利用者保護などの信頼性を向上させる取り組みは、自由なデータ流通を支えるものであり、「自由」と「信頼性」はトレードオフの関係ではなく、相互促進的な関係にある、というのがこの理念の核心です。そして、こうしたデータ流通を促進する環境作りは、安心・安全で自由でオープンで分断のないインターネット空間があって、初めて可能になるものです。DFFTが日本のデジタル分野における中心的な戦略となる中で、データ流通を促進し、自由でオープンなインターネットを維持・発展させることは、その基盤的な条件をなすものであり、その実現のためにも、IGFを日本に招致し、成功に導くことでその重要性、有効性を示していくことで、マルチステークホルダーによるIGFを一層強化・発展させようという決意したのはこのような背景からです。

IGF京都2023には6,000人を超える現地参加者が参加いただき、さまざまなインターネットにかかわる課題を議論いただきました。全体のテーマを「The Internet We Want～Empowering All People(私たちの求めるインターネット～すべての人を後押しするもの)」とし、その下で八つのサブテーマ、

- ① AIと新興技術
- ② インターネット分断回避
- ③ サイバーセキュリティ、サイバー犯罪とオンライン安全性
- ④ データガバナンスと信頼性
- ⑤ デジタル・ディバイドと包摂性
- ⑥ グローバルなデジタルのガバナンスと協力
- ⑦ 人権と自由
- ⑧ 持続性と環境

について、300を超えるセッションが開催されています。この

全体テーマは、IGFの強化のために設置された「Leadership Panel」において議長を務めるVint Cerf氏の提唱によるものであり、インターネットの父と呼ばれる同氏のIGFに込めた思いがよく表れたテーマだと言えるでしょう。高齢をものともせず、精力的に議論を主導する同氏の姿勢は、準備に当たる周囲の人々にも大いに感銘と刺激を与えていました。

IGF京都合会の準備を始めた頃には、海外の関係者との間では「過去最高だったベルリン大会の現地参加者が4,000人弱であったことも考慮して、5,000人を目指す」と宣言して、「野心的だが、素晴らしい」とエールをもらっていました。蓋を開くと現地には6,000人を超える参加者が世界中から集まってくれました。特に、過去には欧州開催だったこともあり、欧州からの参加者が多かったIGFに、アジア太平洋地域から活発な参加があったことは大きな収穫でした。参加者の多くがマルチステークホルダーによるインターネットのさまざまな課題を自由に議論したことでなく、日本の食事や風景、人々のホスピタリティに感銘を受けたことは明白でした。大会終了時には会う人会う人、すべての人から「過去最高のIGF大会だった」「日本、ありがとう」という言葉を聞きました。これは政府だけでなく、日本のインターネットコミュニティが総力を挙げて、このIGF京都大会をホストし、来訪者をもてなした結果であることは間違いなく、招聘を決めた政府の一員として関係者に厚く御礼を申し上げるところです。

IGF京都2023は大成功のうちに終了しました。しかし、招致の本当の目的は終わっていません。一つにはIGFというマルチステークホルダーによるインターネットガバナンスの議論の場が、効果的に機能していることを世界に示し、2025年に来るWSIS+20の見直しの議論を乗り越えて、さらに発展していくことを見届けなければなりません。そのためには、2023年の成功を糧に今後もIGFの活動を元ホスト国として盛り上げていかなくてはならないでしょう。

もう一つは国内における取り組みの活性化です。インターネットの安全性に関する取り組みは国内でさまざまな関係者が、まさにマルチステークホルダー方式で取り組んでいただいております。日本はお手本のような国だと言っても過言ではないでしょう。ただ、それを集約し「インターネットガバナンス」の議論として推進し、国際的な議論に貢献するコミュニティとしての機能が十分発揮できていない、という長年の悩みがありました。今回JPNICさんが中心となってIGFタスクフォースを結成いただき、さらに国内のコミュニティの法人化にも取り組んでいただくこととなったことは、IGF京都合会の大きな成果の一つと考えています。こうした取り組みをまさにマルチステークホルダーで支えることによって、我が国のインターネットガバナンスの議論が一層強化され、安心・安全で、自由でオープンなインターネットが一層発展することを願って止みません。



APNIC 56と同じく国立京都国際会館での開催でした



IGFは国連主催の会合です

IGF2023報告会

IGF2023開催を受けて、2023年12月26日(火)および27日(水)にエッサム神田ホール(東京・神田)およびオンラインのハイブリッドにて、IGF2023に向けた国内IGF活動活性化チームの主催により、IGF2023報告会が開催されました。今回ご寄稿いただいた飯田様もご発表されています。

開催概要

日時：2023年12月26日(火) 15:00-18:40 27日(水) 15:00-18:50
会場：エッサム神田ホール1号館およびオンライン
主催：IGF2023に向けた国内IGF活動活性化チーム

報告会の資料および録画、要約は右記のURLからご覧いただけます。

IGF 2023報告会

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igf/20231226/>

